

# 「技能実習生」の現状

小牧市立篠岡中学校 3年

ある日、テレビでニュースを見ていると、「人権侵害」という大きな見出しの下に、「農業を支える技能実習生 農家から暴行を受ける」と、説明が書いてあった。「技能実習生」という言葉。誰しもが聞き馴染みのない言葉である。僕は、いてもたってもいられず意味を調べた。「日本で技術を身につけるために働く外国人」という意味だと初めて知った。

正直、僕たちとは無縁な存在だと思った。しかし、それは大間違いだ。例えば、毎日の食卓に並ぶ、トマトやキャベツなどの野菜。これらは農家によって作られる。その時、農家の働き手となって野菜を作ってくれているのが「技能実習生」なのである。

実際問題、今の日本の農業は、非常に厳しい状況に置かれている。農家の平均年齢はなんと、65歳。高齢化が進んでいるのだ。それゆえに、「技能実習生」は、農家にとっては、ありがたい助け舟なのだ。

そんな彼らを大切にしている農家が大半であるなか、悲しいことは、彼らに暴言や暴力をふるう農家もあるというのだ。ある記事には、実習生のAさんが、実習先の農家で、日常的に暴言の被害に遭っていたという内容が書いてあった。「自分の国へ帰れ」「いらねえよ お前なんか」そんな言葉が、日常的に言われたそうだ。

これは「技能実習生」への人権侵害だと強く思う。

こんなことが僕たちの知らない間に僕たちの住む日本で起きていると知って、残念でならない。「このままでは、日本がおかしくなってしまう。」と感じた。今日食べた野菜は、技能実習生の方がつらい思いをしてまで育てたものかもしれないと想像すると、心が痛くてたまらない。

では、僕たちにできることは何か。それを考えた時に大切だと思うことは、「事実を正しく知る」ということだ。もしかしたら、この文章を読んで、僕のように、今こういう事実があることを初めて知った人も多いのではないだろうか。だからこそ、まずは、「知る」ことが大切だと強く感じる。

自分が「知る」ことができれば、次は「広める」ことが大切だと思う。友達や先生などに「こんなことが起きているんだ」ということを広めて、知ってもらおう。そうすることでより多くの人に知ってもらおうことができると思う。

これからの日本の農業を担う「技能実習生」は日本の宝だと僕は思う。また、いつも野菜を食べられるのは、多くの「技能実習生」の方々が関わり、育ててくれているからである。改めて、そんな彼らの存在に敬意を感じる。そして彼らへの人権侵害が、これから一切なくなることを願う。

最初のニュースには続きがある。「技能実習生制度を廃止へ 新制度へ移行。」これまで、彼らは転職することが原則、不可であったが認められるようになるそうだ。実は、世界からこの制度は「奴隷制度」と呼ばれていたそうだ。このことが第一歩となり、彼らの人権が守られ、人権侵害が二度と起こらないことを心から願う。

世の中には、僕たちの知らないところで、苦しんでいる人がたくさんいるのではないか。技能実習生のように、僕たちにとって身近な存在であるにもかかわらず、現状が知られていないことが多くあるのではないか。僕も、今回のニュースをきっかけに気づいた。だからこそ、もっと広く、世の中に目を向けて、生きていこうと強く思った。